

第3回防災道の駅やちよ整備検討会 会議録

会議名 第3回防災道の駅やちよ整備検討会
開催日時 令和4年1月19日(水) 午前9時55分～午前11時08分
開催会場 八千代市役所 旧館4階 第2委員会室
議 題 (1) 第2回防災道の駅やちよ整備検討会について
(2) 防災道の駅やちよに整備する施設について
(3) その他
出席者名 宇於崎会長, 小川委員, 石川委員, 出竹委員, 大澤委員, 鈴木委員,
【民間有識者】 株式会社やちよリーダーファーマーズ 代表取締役 白井 良夫,
一般社団法人八千代市観光協会 会長 杉山 智基,
八千代商工会議所 副会頭 飯田 明彦,
八千代市自主防災組織連絡協議会 会長 佐藤 寛
【オブザーバー】 千葉国道事務所 松原計画課長,
千葉県防災政策課 渡辺政策室長,
千葉県道路計画課管理調整班 鈴木班長
【事務局】 檜垣危機管理監
危機管理課 萩原課長, 竹内副主幹, 一色主査補, 寺沢主事
農政課 余田課長, 周郷副主幹, 三橋主査, 市原主事
公開又は非公開の別 公開
傍聴人定員及び傍聴人数 定員6人/傍聴人6人
所管部課室名 総務部 危機管理課
047-421-6716

1 開会

2 会長挨拶

3 議事

(1) 第2回防災道の駅やちよ整備検討会について

資料1-1～1-3の内容について, 八千代市 檜垣危機管理監より説明がされた。

白 井: コンセプト案の「農」の「地元畜産物」を「地元農畜産物」と変更していただきたい。

佐 藤: コンセプト案は普段から賑わいを持たせるという視点でみると, 目的がピンとこない。行楽で訪れる目的の買い物・グルメはどこでもできる。

そこで, 「見る」「体験する」「学ぶ」「自然と触れ合う」という「楽しさ」

の要素も加えてはどうか。例えば「学ぶ」では防災やSDGsに結び付くと考えられる。

白 井： 道の駅のオープン以来、農業体験を通じてこれまでも指定管理でできる範囲のことは取り組んできたが、新たな要素を加えるとなると、スペース的な課題もある。防災道の駅を契機に活動できるエリアを拡大することで防災の学びの場も設けられると考える。

国 計画課： コンセプトはキーワードをシンプルに表すのが重要である。要素を詰め込み過ぎた故に何を目指すのかが分かり難くなるのが想定されるため、提案があった要素については、コンセプトを実現するための方策で補足されるのが通例である。一通り事務局の説明を受けた後で、補足ができていないかを確認してはどうか。

資料1-4～1-8の内容について、八千代市 檜垣危機管理監より説明がされた。

佐 藤： 防災学習を行う場所として、ふるさとステーションよりも農業交流センターの方が相応しいのではないか。またどのような学習を想定しているのか。

危機管理監： ふるさとステーションではオープンスペース等に防災関連のパネルを展示しての啓発、農業交流センターでは防災訓練などの場を設けることを想定している。

佐 藤： パネル展示等を用いた啓発活動だけではなく、対面による会話をすることで更なる防災に関する理解を得られると考える。農業交流センターの場を借りて自主防災組織の役員等が交替で学びの場や相談対応を行うといったことができな

いか。

危機管理監： 今後の検討とする。

会 長： 「楽しみを与える行動」が「遊び」でもあるので、現状のコンセプト案からの大きな逸脱はない。

コンセプトは事務局提案のものとし、色々と加えてはどうかという提案については、コンセプトを実現するための方策で充足する対応とされたい。

(2) 防災道の駅やちよの整備コンセプト・ビジョンについて

資料2-1～2-8の内容について、八千代市 檜垣危機管理監より説明がされた。

飯 田： 大地震時に国道16号を通行できない事態を想定すると、予備の通行確保も必要ではないか。

電源は蓄電池を備えた太陽光パネルも検討してはどうか。屋根に設置することで平常時からの利用が可能である。

水の確保は、貯留タンクと併せて手動で使用する井戸を掘ってはどうか。上総堀で複数個所に井戸を掘れば災害時の活用のほか、日ごろの上総堀の学びの場にもなる。

白 井： 第2回の整備検討会でも意見させていただいたが、雨漏り対策と併せて屋根

に太陽光パネルを設置していただきたい。

非常用電源動力として天然ガスを使用してはどうか。ふるさとステーション側には大多喜ガスが通っており、プロパンガスは燃焼すると二酸化炭素が排出されるが、天然ガスはそうではないため環境に優しいと聞いている。

貯水槽は給水車への供給、あるいは持ち込んできたペットボトル等への提供のどちらを想定しているのか。

国道16号のアクセスは是非とも内回り外回りの双方から出入りできる交差点としていただきたい。可能であれば十字交差点にできないか。警察との調整があると思うが、強く要望する。

井戸はよほど深く掘らなくても水は出ると思うが、水田近くの井戸は水質基準をクリアしていてもおいが気になるという声があり、井戸が深いほどおいが強く出ると聞いている。

ふるさとステーション側はすでに駐車場を増設したため、施設配置説明には当該地も加えていただきたい。

佐藤： 多目的トイレとしてオストメイト対応も考慮していただきたい。

令和5年度を目指した施設整備とのことだが、災害はいつ起こるか分からないため、先行して防災倉庫だけでも整備することは可能か。

国 計画課： 今回提示の施設規模は、防災道の駅として比較的短期間で整備する施設を示したものであり、提示の施設が完成したら終わり、という一過性のものではなく、非常用発電の天然ガス等の導入についても、引き続き検討していくというのをこの先策定されるであろう、整備計画書に記載されるという認識でよいか。

会 長： 次世代エネルギーの活用は事務局でも導入の検討をし、資料へ反映されたい。

白 井： 防災道の駅では、どのような状態になれば災害発生となり、施設管理者の対応が必要となるのか。

国 計画課： 具体的な被災規模を明確に示した統一ルールはなく、各道の駅の立地条件等に応じた設定をしていくことが必要と考えている。

「防災道の駅やちよ」でいえばBCP計画を策定する中で、指定管理者としてどこまでの被災想定に対して、どこまで対応できるか、ということを設置者と調整の上、対応すべき災害レベルを設定していくことになるであろう。

白 井： 次回の整備検討会後のハード整備等のスケジュールを提示していただきたい。また、次年度以降は我々が意見を述べる場はあるのか。

危機管理監： 整備のスケジュール感は何らかの形で示すことを目指し、次年度以降も必要に応じて皆様に情報提供する場を設けることを検討したい。

市危機管理課長： 次回の整備検討会は、令和4年3月14日（月）午前10時00分から八千代市役所別館2階第1・第2会議室での開催となる。